

JGN全国大会（男鹿半島・大湯大会）参加レポート

所属 NPO 法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会

洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク

名前 荒町美紀

このたびの助成対象となった JGN 全国大会について次のとおりレポートします。

① 大会全般 内容・感想

一昨年、昨年に引き続き 3 回目の参加でしたが、今年も全体の参加人数は約 1000 名、また、大交流会については約 800 名の参加と、今年も人数の多さに圧倒されました。ポスターセッションも、あまり広くない会場にたくさんの人数が入っていたのでゆっくり見る事は出来ず、少し残念でした。

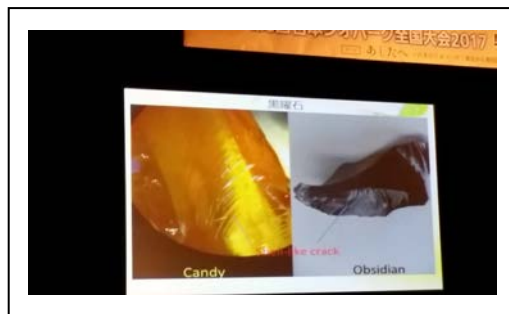
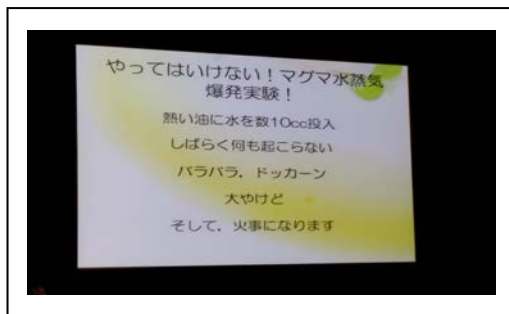
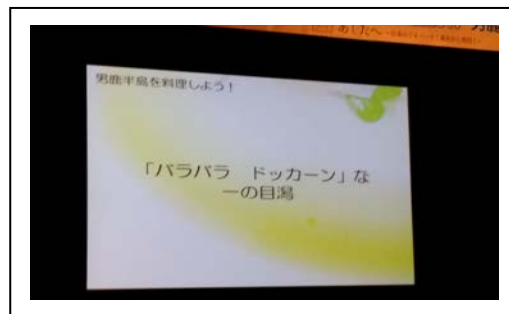
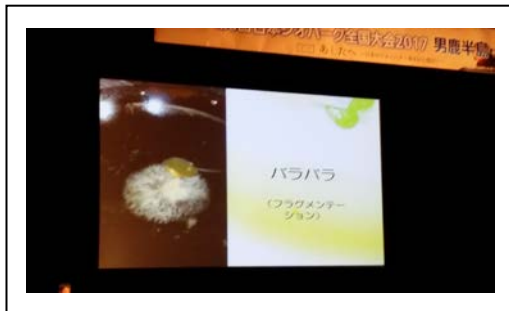
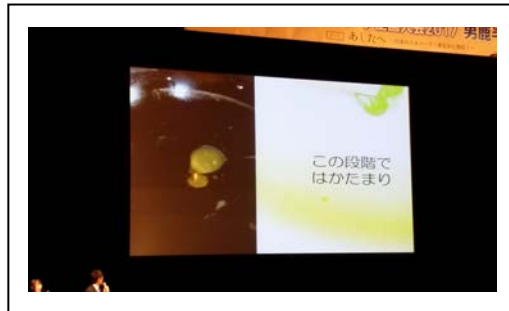
開会式、閉会式その他の進行は、高校生 2 名の司会でしたが放送部という事もあり活舌もしっかりしていて、声もとっても聞きやすいトーンで落ち着いていて上手でした。また中学生のジオパーク紹介も少し芝居仕立ての所もあり、とても分かりやすく、また楽しく見させてもらいました。

表彰された、日本ジオパークの母、矢島道子さんのお話も、とても興味深く、最初のころはどこにも相手にしてもらえず苦労したという言葉聞いて、今日の日本ジオパークはこうした苦労の元で出来てきたんだな・・・という思いで胸が熱くなりました。



基調講演では、秋田大学 大学院教育学研究科教授 林 信太郎先生の、キッチン火山学を聞きました。私は、林先生の、「ジオパークへ行こう」という本を持ってて、キッチン火山学にも大変興味があったので、楽しみにしていました。

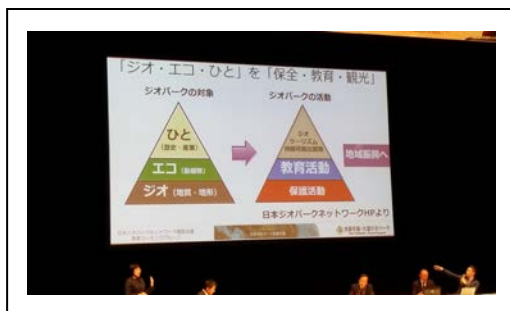
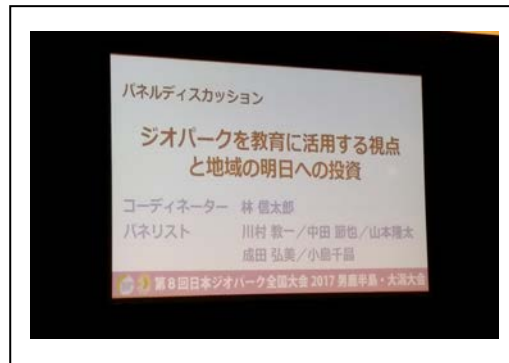
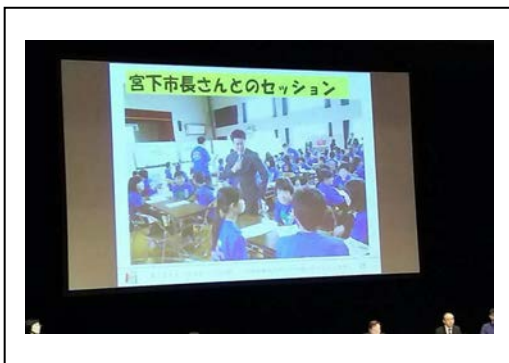
「シュガーマグマ」の作り方や「やっていけない！マグマ水蒸気爆発実験」など、時には真面目に、時には笑いもある講演は、約1時間ほどの内容でしたが最後まで飽きることなく聞くことが出来ました。話の仕方や、講演内容の構成の仕方なども大変勉強になりました。キッチン火山学は、機会があればぜひやってみたいと思います。



シュガーマグマは「べっこう飴」の作り方というお話を聞いて、なるほどな〜、出来るかも・・・と思いました。

パネルディスカッションは「ジオパークを教育に活用する視点と地域の明日への投資」というテーマで、林先生がコーディネーターとなり5名との先生のディスカッションでした。この中で特に印象に残ったのが、むつ市立苫正小学校の二人の先生の実例発表でした。下北ジオパークが認定見送りになった時、学校の授業の中でジオ学習を取り入れ、総合学習でジオサイトを巡ったり、修学旅行で函館に来た時に、道行く観光客の人に下北ジオパークのPRをしたり名刺を配る、そのほか、むつ市長へのジオサイトの改善について提言をするなど子供たちが活動し、再認定審査ではプレゼンもしました。また、学校給食にジオパークメニューを導入する等、おいしい、楽しいと子供たちが感じるように活動を進めたそうです。むつ市長は、下北ジオパークが認定されたとき、子供たちに「君たちのおかげで認定された」と感激の涙を流したそうです。

先生は、この活動を通して子供たちが大きく成長したこと、修学旅行のPR活動を通してそれまでは、恥ずかしがりやだった子供たちが人と話せるようになったこと、何より自分の土地のいいところをたくさん知ることができ、テレビや新聞などにも取り上げられ、いろんな所で認められるようになったことによって「自己肯定感の高まり」が見えたことが嬉しかったと発表されてました。ジオ学習をすることによって、その土地の素晴らしさがわかる、それは「郷土愛」にもつながるともお話されてました。学校教育の限られた時間数の中では中々ジオ学習を取り入れることは難しいかもしれませんが、その土地の子供たちが、その土地の良さを知る、郷土愛を持つ、というのはとても大切なことだと感じました。また、子供たちにとってもいいことが沢山あり、今回のジオ学習では大変なこともありましたがやればできるという経験が、学校生活にも反映され、実践行動力がついたともお話ししていました。ジオパークと学校教育はWINWINな関係で、お互いにいいことがあるというまとめで終わりましたが、苫生小学校のように、実例報告があると説得力があるな・・・と感じました。



② 分科会

私は、分科会④「ガイド技術を考える～インタープリテーションの視点から～」を選びました。まず初めに「なぜブラタモリは面白い!？」というテーマでお話がありました。

実際にブラタモリの放送に携わった方3名（名前を忘れてしまいましたが・・・）が撮影秘話や、エピソードなどを交え、お話を進めていきました。

その中で、ガイドにとって役立つ内容がたくさんありました。

- 1、 スタッフは、この番組を制作するにあたり、すごく時間をかけて取材をする事
- 2、 100個のお宝を探したら、その中から95個捨てて5個で話を凝縮していく
- 3、 タモリさんが興味を持つようにお話を進めていく
- 4、 タモリさんの反応を待つ（タモリさんが話出すのを待つ姿勢が大切）
- 5、 その日のテーマを引き出すために複線を張る

例えば、岩が固いというキーワードを引き出すために、～という事はどうでしょう？

～という事は、なぜ？から、あ～岩が固いからだ・・・と言わせるように誘う。

この5つの項目は、私が普段行っているガイド活動でもとても大切なことで、特に4番のお客様の反応を待つ・・・というところでは、「ガイドは沢山の引き出しを持っているから一方的に話をしがちになる。そうではなくて、お客様に考えてもらい、お客様が答えを出せるように反応を待つ姿勢も大切だ」という話を聞き、その通りだと感じました。

ブラタモリ、その後は・・・ブラタモリで歩いたところは、やはり反響が大きく、ジオツアーが出来たり、ブラタモリの足跡を辿るというお客様もいるようでした。

また、地元の人達にも反響があり、地元の人たちが知らなかった所もたくさんあったとの声があったそうです。やはりブラタモリの影響力を改めて感じた時間でした。

休憩をはさんで、日本インタープリテーション協会 代表理事の古瀬浩史氏が講師となりインタープリテーションについて講話がありました。インタープリテーションの要点として6項目上げられ、その中でも、教材の活用、ストーリーのあるテーマの設定、体験の重視にスポットを当てました。教材の活用や体験の重視は、お客様に、目の前にあるものを触ったりテーマに沿ったものを探してもらうという内容で、これは普段のガイド活用の中でも少しずつ取り入れているものでした。今回私が一番びっくりしたのが、「ストーリーのあるテーマ設定」で、今まで思っていたテーマの概念とは全く違うものだったことでした。

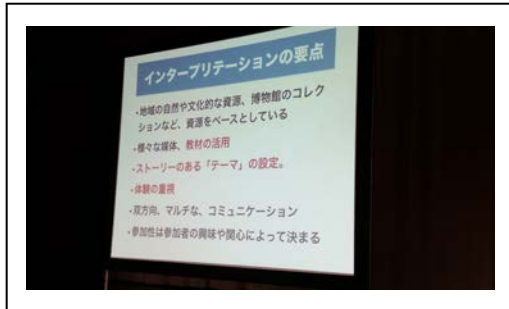
インタープリテーションでは、私が今までテーマだと思っていたものは「トピック」でテーマは、そのトピックの内容を短いストーリーにしたものでした。来シーズンのガイドで、これをぜひ実践していきたいと思いました。また、やはりインタープリテーションの話の中でも出てきたのが、「お客様に発見してもらおう→そこから楽しんでもらう、しゃべりすぎない事が大切」という内容でした。ここでプチ実習として「どんぐり」の話が出ました。

どんぐりを書いてもらう→どこから芽が出るか考えてもらう→書いてもらう→（探しに行ってみよう）→正解は??という流れで、時間がないので探しに行くことはできませんでしたが、それでもとても楽しく実習を終えました。

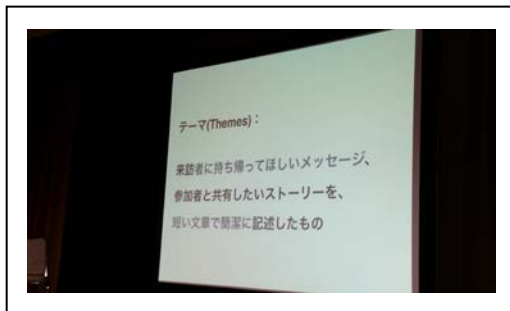
今回、この分科会を選んだのは、自分がガイドの仕事を初めて3シーズン目が終わり、自分のガイド技術の見直しと、ガイドとしてもっと成長していくために必要な事を知りたいと思ったからでした。時間は3時間と短い時間でしたが、自分のガイドを考えさせられる有意義な時間になりました。



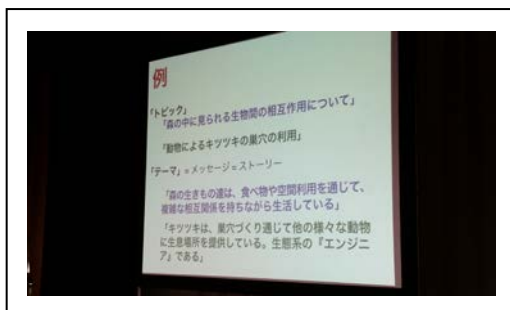
今が旬のブラタモリの話。
大変興味深い内容でした。



インタプリテーションの要点。
すべてが大切と思いましたが、時間の関係上
赤い文字の部分に要点を置いて話が進みました。



今まで自分が思っていた「テーマ」とは
全く違う内容で、一番びっくりした
お話でした。



テーマとトピックは違う???
テーマって???トピック???と、頭の中が
???でいっぱいになりましたが、この例を見て
なるほど・・・と納得しました。

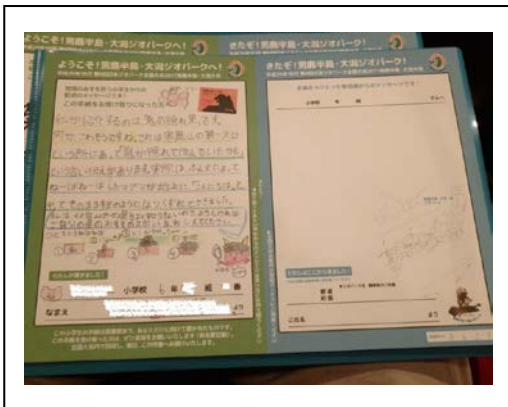
③ 全体を通して感じたこと

今年は仕事の関係でエクスカージョンには参加せずに帰ってきてしまいましたが、交流会では1年ぶりに再会する他のジオパークの方々とお話に刺激を受け、また1年ぶりの再会にも関わらず、私の事を覚えていてくれて沢山の人の声をかけてもらったことに感激しました。

分科会では短い時間の中でも、自分のガイドに取り入れようと思う事が盛りだくさんで大変充実した時間を過ごせました。

すべて印象に残った大会ではありませんでしたが、「これはいいな」と感じたのは、配られた資料の中に地元の小学生からの直筆メッセージが入っていて、なおかつ返信用の用紙が付いていました。これに記入して所定のポストに入れると、メッセージを書いた小学生に直接届くとのこと・・・この試みは素晴らしいと思いました。ジオパーク全国大会というと、挨拶にたつのは各町の首長さんや役所関係の人が中心となり、交流会も参加者が中心となるので、影で支えてくれている人たちとは、中々交流がとることが難しくなりますが、こういう交流があると、縁の下の力持ちさんとなつたような気がしました。全国大会は1000人規模のお客様を迎える大きな大会で迎え入れるホストとなった町の苦労は計り知れません。でも、そうした人たちの支えがあって参加をする私たちは楽しく、充実した時間が過ごせるという事も忘れてはいけないと感じました。来年は、アポイ岳ジオパークで全国大会。北海道開催という事で出来る限りお手伝いが出来ればと改めて思いました。

今回参加させていただいた大会で得たことを、来年からの自分のガイド活動に、そしてそのガイド活動を通して、洞爺湖有珠山ジオパークの良さをもっと広げるために活かしていきたいと思います。



左側が直筆メッセージ、右側が返信用です。真ん中から切って返信用のみを所定のポストに投函するので、直筆メッセージはもって帰って来ることができます。

これは、とても良い思い出になると思います。